

# 令和5年度 名古屋市教育研究員研究計画書 5番 持続可能な社会の在り方を考える子どもが育つ社会科学習

名古屋市立笠東小学校教諭 田 中 隆 晃

## I 研究のねらい

現代社会では、環境破壊、気候変動、食料やエネルギー資源の確保、紛争問題などの課題に対して、地球規模での対応が求められている。このような社会を取り巻く諸課題を解決し、将来にわたって安心して暮らすことのできる社会を形成するため、「持続可能な開発のための教育（以下：ESD）」が推奨されている。また、2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標（以下：SDGs）」は、持続可能な社会を目指すために、新しいアプローチが必要だと世界に訴え掛けている。これらを踏まえ、学習指導要領の前文においても、「持続可能な社会の創り手」を育成するよう明記されており、教育を通して持続可能な社会を形成する重要性が強調されている。

私が考える「持続可能な社会の在り方を考える」とは、SDGsで示されているような地球規模の諸課題について、ただ理解するだけでなく、社会的事象の特色や意味など社会の中で使うことのできる応用性や汎用性のある知識（以下：概念的知識）を生かして、持続可能な社会の達成に向けて考えるということである。このように考える子どもを育成するためには、社会科のカリキュラムに「持続可能な社会に向けて」という視点を取り入れ、教材化していく必要があると考える。

また、2023年3月の中央教育審議会の答申にも、「予測できない未来に向けて自らが社会を創り出していくという視点からは、『持続可能な社会の創り手』という学習指導要領前文に定められた目指すべき姿を実現することが求められる」と示されている。本研究で目指す「持続可能な社会の在り方を考える子ども」は、この学習指導要領で目指す理念と方向性が一致しており、持続可能な社会の実現を求める今日的課題に迫るという点で意義があると考えます。

## II 研究の方法

1 研究の対象 名古屋市立笠東小学校 第5学年 29人

2 基本的な考え

国立教育政策研究所が刊行した「学校における持続可能な発展のための教育に関する研究[最終報告書]」には、持続可能な社会をつくる構成概念として「多様性」「相互性」「有限性」「公平性」「連携性」「責任性」の六つが示されている。これらは、国立教育政策研究所が、「持続可能な社会づくりに関わる課題」を見いだすために、「持続可能な社会づくり」を捉える要素として明確にしたものである。これらの構成概念を取り入れて教材化をすることにより、持続可能な社会をつくるためには「どのようなことが大切か」という理解が深まると考える。

そこで、持続可能な社会をつくる六つの構成概念の中から、人を取り巻く環境（自然・文化・社会・経済など）に関する概念である「多様性（いろいろなよさがある）」「相互性（つながっている）」「有限性（かぎりがある）」の三つの構成概念を取り入れ、教材化を行うことにした【資料1】。

### 教材化の工夫

手順① 単元目標を設定する。

手順② 構成概念と単元の関わりを明確にする。

手順③ 構成概念を捉えることができる教材を扱う。

手順④ 学習したことを振り返る時間を設ける。  
(サステナブル・タイム)

【資料1 教材化の工夫】

この教材化の工夫では、まず三つの構成概念（「多様性」「相互性」「有限性」）を踏まえた単元の目標を設定する。次に、構成概念と学習する単元の関わりを明確にする。そして、子どもが構成概念を捉えることができるような教材を扱う。

本研究の主題に迫るために、社会科の基本的な学習過程「つかむ」「しらべる」「まとめる」段階に、持続可能な社会をつくる構成概念を基に、学習したことを振り返ってまとめる時間を設ける。また、「いかす」段階に、獲得した概念的知識を生かして、持続可能な社会の達成に向けて考える学習活動を設定する【資料2】。

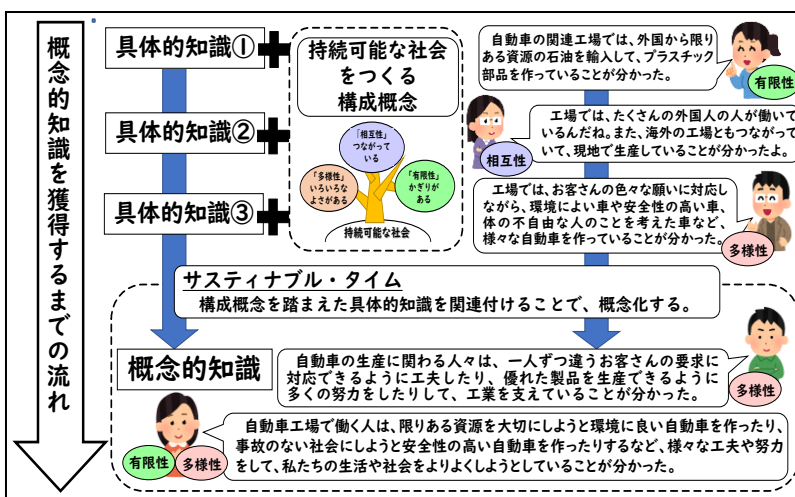
段階	主な学習活動
つかむ	① 資料を基に、疑問を發表し合い、学習問題をつくる。
しらべる	②③④ 様々な取組について調べる。また、調べたことと、持続可能な社会をつくる三つの構成概念を関連付ける。
まとめる	⑤ 持続可能な社会をつくる三つの構成概念を基に、学習したことをまとめる。
いかす	⑥ 獲得した概念的知識を基に、持続可能な社会のために生かすことができることを考え、話し合う。

【資料2 基本的な学習過程】

### (1) 「サステイナブル・タイム」の設定

「まとめる」段階において、持続可能な社会をつくる三つの構成概念を基に、学習したことを振り返ってまとめる時間「サステイナブル・タイム」を設けることで、持続可能な社会をつくる構成概念を踏まえた概念的知識を獲得することができるようにする。

そこで、「つかむ」「しらべる」段階において、三つの構成概念を基に、学習したことを振り返って、具体的知識と構成概念を関連付ける。そして、「まとめる」段階の「サステイナブル・タイム」において、構成概念を踏まえた具体的知識を関連付けることで、構成概念を踏まえた概念的知識の獲得へとつなげる【資料3】。

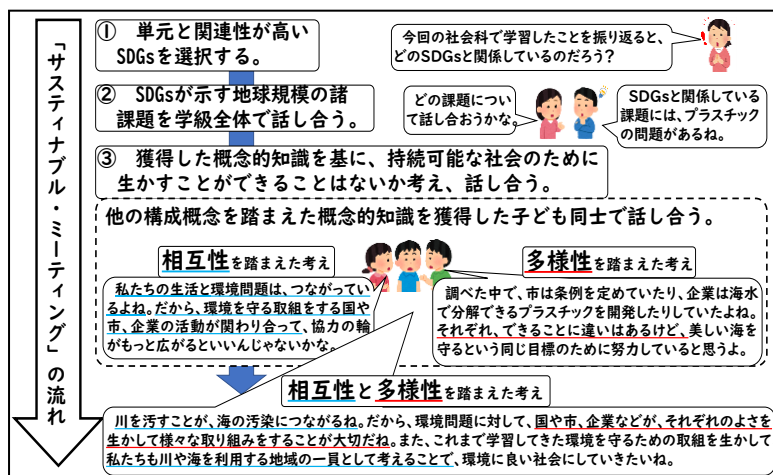


【資料3 概念的知識を獲得するまでの流れ】

### (2) 「サステイナブル・ミーティング」の設定

「いかす」段階において、獲得した概念的知識を生かして、持続可能な社会の達成に向けて話し合う時間「サステイナブル・ミーティング」を設定する。「サステイナブル・ミーティング」では、社会的事象を通して獲得した概念的知識を基に、持続可能な社会のために生かすことができることを考え、話し合う。その際に、地球規模の諸課題と関連付けて考えることで、持続可能な社会をつくるためには、どのようなことが大切なのか捉え、持続可能な社会の達成に向けて考えるようにする。

「サステイナブル・ミーティング」では、まず、単元を通して学習した内容と関連性が高いSDGsを選択する。次に、そのSDGsが掲げられた原因となった地球規模の諸課題を学級全体で話し合う。その後、獲得した概念的知識を基に、持続可能な社会のために生かすことができることはないか考え、話し合う。話し合う際には、他の構成概念を踏まえて概念的知識を獲得した子ども同士の考えを交流させる。このような話し合い活動を通して、持続可能な社会をつくるためには、どのようなことが大切なのかを捉え、持続可能な社会の達成に向けて考えるようになる【資料4】。



【資料4 「サステイナブル・ミーティング」の流れ】

### 3 「これからの食料生産とわたしたち」「環境を守るわたしたち」における学習展開

本研究では、小学校第5学年単元「これからの食料生産とわたしたち」「環境を守るわたしたち」を取り上げ、実践に取り組む。

単元と目標	<p>単元「これからの食料生産とわたしたち」（6時間）</p> <p><b>【実践のねらい】</b></p> <p>持続可能な食料生産・食料確保が重要な課題であることを理解し、これからの食料生産の持続可能な発展について考えようとしている。また、食料自給率や外国との関わり、食の安全・安心への取組に着目し、持続可能な社会の達成に向けて考えることができるようにする。</p>	<p>単元「環境を守るわたしたち」（6時間）</p> <p><b>【実践のねらい】</b></p> <p>公害の防止や生活環境の改善など、国民の健康な生活を守ることの大切さを理解し、持続可能な環境の保全について考えようとしている。また、環境問題に対して、継続的に取り組む人々に着目し、持続可能な社会の達成に向けて考えることができるようにする。</p>
階級	主な学習活動	
つかむ	<p>① 日本と主な国の食料自給率の資料を基に、食料生産で心配されることや疑問を発表し合い、学習問題を設定する。</p> <p><b>【学習問題】</b></p> <p>持続可能な食料生産・確保には、どのような課題があり、これからの食料生産をどのように進めたらよいのだろう。</p>	<p>① 学区を流れる天白川の昔と現在の川の様子を比較して、環境問題で心配されることや疑問を発表し合い、学習問題を設定する。</p> <p><b>【学習問題】</b></p> <p>持続可能な環境保全のためには、どのような課題があり、これからの環境保全をどのように進めたらよいのだろう。</p>
しらべる	<p>② 和洋食の写真の比較や食料品別の輸入量のグラフの推移を調べ、食料生産への影響や問題を捉える。また、食品ロスを少なくしようとする企業の取組を調べ、限りある食料を大切にすることの有限性や、消費者と生産者の関わりから相互性を捉える。</p> <p>③ トレーサビリティや検疫所などの様々な取組を調べ、輸入食品の検査を通して、食の安全、安心を確保するために様々な対応を行っていることから多様性を捉える。</p> <p>④ 地産地消の取組を調べ、食料を安定的に確保するための取組であることを捉える。産業別の人口の割合の変化と土地利用の変化を調べ、食料生産の課題を捉える。</p>	<p>② 堤防沿いに住む方の話を聞き、今と昔の川の様子の違いから、汚染の原因を調べる。</p> <p>③ 名古屋市緑政土木局の方の話を聞き、川の整備や維持管理などを公的機関が行っていることを捉える。名古屋市が定めた環境保全条例や、国が定めた環境保全のための法律を調べ、様々な機関が環境を守るために行っている対応の多様性を捉える。</p> <p>④ 分解されるプラスチック製品を製造する企業の取組を調べ、限りある海の生き物を守ろうとすることから有限性を捉える。また、堤防のごみ拾いの活動から、住民も清掃活動に参加する理由を調べることで、私たちの生活と環境問題との関わりから相互性を捉える。</p>
まとめる	<p>⑤ 食の安全・安心への取組や食料を安定して確保するための取組など、調べてきたことを振り返り、これからの持続可能な食料生産、食料確保に向けて大切なことをまとめる。</p> <p><b>【検証場面1】</b></p>	<p>⑤ 人々の健康や生活環境を守っていくために国や市、企業、地域住民が行ってきた取組など、調べてきたことを振り返り、これからの持続可能な環境保護に向けて大切なことをまとめる。</p> <p><b>【検証場面1】</b></p>
いかす	<p>⑥ 学習したことを基に、持続可能な社会のために生かすことができることを考え、話し合う。</p> <p><b>【検証場面2】</b></p>	<p>⑥ 学習したことを基に、持続可能な社会のために生かすことができることを考え、話し合う。</p> <p><b>【検証場面2】</b></p>

#### 4 質問紙法・記述分析による児童の実態把握

単元「米づくりのさかんな地域」の「まとめる」段階において、「サステイナブル・タイム」を設定して学習したことをまとめさせ、持続可能な社会をつくる構成概念を踏まえた概念的知識を獲得した記述ができていないか調査する。また、「いかす」段階において、「サステイナブル・ミーティング」を設定して、獲得した概念的知識を生かして、持続可能な社会の達成に向けて考えることができていないかを、話合いの様子や振り返りの記述内容から調査する。

#### 5 授業研究を通して明らかにしたいこと

- (1) 「まとめる」段階において、「サステイナブル・タイム」を設定し、三つの構成概念を基に、学習したことをまとめることは、持続可能な社会をつくる構成概念を踏まえた概念的知識を獲得する上で有効か、記述からつかむ。
- (2) 「いかす」段階で、「サステイナブル・ミーティング」を設定し、他の構成概念を踏まえて概念的知識を獲得した子ども同士の考えを交流させることは、持続可能な社会の達成に向けて考える上で有効か、話合いの様子や振り返りの記述からつかむ。

### Ⅲ 年間の研究計画

月	研究・調査・授業研究等
4	○ 実態調査を行う。
5	○ 研究主題の基本的な考え方を基に研究の方向性を定め、研究計画書を作成する。 ○ 第1次授業研究の授業計画書を作成し、検討する。 ○ 長期研修の日程を作成する。
6	○ 第1次授業研究単元「これからの食料生産とわたしたち」 【検証点1】 「まとめる」段階において、「サステイナブル・タイム」を設定し、三つの構成概念を基に、学習したことをまとめることは、持続可能な社会をつくる構成概念を踏まえた概念的知識を獲得する上で有効か、記述内容からつかむ。 【検証点2】 「いかす」段階で、「サステイナブル・ミーティング」を設定し、他の構成概念を踏まえて概念的知識を獲得した子ども同士の考えを交流させることは、持続可能な社会の達成に向けて考える上で有効か、話合いの様子や記述内容からつかむ。
7	○ 第1次授業研究を分析し、基本的な考え方を修正する。 ○ 中間のまとめを作成し、今後の研究の方向性を明らかにする。
8	○ 長期研修（A日程）先進研究者を訪問し、研究を深める。 ・同志社女子大学 特任教授 藤原孝章氏 ・奈良教育大学 准教授 及川幸彦氏 ・広島修道大学 教授 永田成文氏 ・東京都市大学 教授 佐藤真久氏 ○ 第2次授業研究の授業計画案を作成し、検討する。
9	○ 第2次授業研究単元「環境を守るわたしたち」
10	長期研修で学んだことを基に改善し、【検証点1】【検証点2】を検証する。
11	○ 第1・2次授業研究の成果や課題、長期研修の成果や今後の研究の課題などを明らかにし、最終のまとめを作成する。
12	○ 「持続可能な社会の在り方を考える子どもが育つ社会科学習」について、1年間の成果や課題をまとめ、発表する。
1	○ 1年間の研究を反省し、今後の研究の方向付けをする。
2	
3	